



Seeker FD

SIZE : 16 × 6.0J+42 ~ 9.0J ± 0, 17 × 6.0J+42 ~ 10.5J ~ 34, 18 × 7.5J ± 50 ~ 11.5J ~ 49
H-P.C.D. : 4H-98 ~ 114.3 / 5H-98 ~ 120.65
COLOR : CUT CLEAR, MATTE BLACK (CUSTOM ORDER AVAILABLE)
PRICE : ¥57,200 ~ ¥82,500

ワークの人気ホイールシリーズ“シーカー”とスタンス業界は、ズブズブの深あへい関係にある。だって、スタンスのムーブメントが日本を直撃した際に、世界的に盛り上がっていたホイールのトレンドがネオクラシック、略してネオクラで、日本でその人気を定着させたのがシーカーなんだから、まさにスタンスとシーカーは、切っても切れない間柄にあるワケよ。

で、そんなシーカーに'24年10月、大きな動きがあった。シーカーMX以来5年ぶりとなる新作2本を、スタンスネイションお台場の特設ブースにてワールドプレミアさせてしまったのだ。新作2本に共通するのは、ディッシュ系のデザインをベースにしてるとこ。スポーク系やメッシュ系がハ

バを効かせていたこのごろでは、お見かけする機会が激減していたものの、デザインとしては伝統的で、ネオクラホイールとしてリリースするにはノーサム・プロブレム。しかも、見かける機会が激減していたということは、逆に言うと、今のストリートでモブキャラにならない新鮮な存在感を足元に与えることができるに違いない。

1本のお名前は“シーカーFD”。FDのアルファベットは、まんまF=フィンとD=ディッシュであることを表している。シーカーシリーズには“シーカーFX”というバイセンがいて、こちらもフィンとディッシュの組み合わせになっているが、長めのスポークでフィンを強く意識させたFXに対して、FDはフィンを短めに設定。おかげでセンターのディッシュ

部分にボリュームが出て、ズシリとした安定性を視覚にもたらしてくれるのだ。

続く2本目は“シーカーDT”。こちらの意味はD=ディッシュとT=タフになり、いかにもディッシュ的な面構成がホイール中心部を大々的に占拠。そしてその外周を8コのスロット（楕円形）が囲むという、由緒正しきクラシカルフォルムを身にまとめる。

そもそもネオクラホイールとは、過去作ホイールの“おいしいところ”をリストアップし、そこに現代のサイズ感と技術をトッピングするものを言う。つまり、過去に存在したホイールの、単なる再販品などではないのだ。当然、ワークもそこを重視。FDとDTのデザインは平面的な2次元の世界にとどまらず、ビミョーに山あり谷ありな立体的3次元の世界を構築。結果、多彩な表情を併せ持つ、飽きのこない現代の大定番作品へと仕上がった。

ワークとしては'00年前後の輸入車を主要ターゲットに定めているらしいが、このシンプルかつレトロなデザインなら、イマドキのアゲエスオフロード車に履かせててもイケるクチだ。

シーカーFDとシーカーDTのリリースは、'24年11月1日。ってことは、もうオーダー可能状態にあり。直前に迫った'25年は、おニューでディッシュなシーカーシリーズ“FD & DT”を愛車に履かせて、ストリートを我が物顔のドヤ顔でぶっ走れっ!!

WORK

Seeker FD & DT

ネオクラネクスト

スタンスワールドで抜群の存在感を誇るブランド“シーカー”が、2025年に向けてさらなるパワーアップを画策。新ネタ2作品を市場に投下して、ネオクラ・ムーブメントを完全制圧しにかかるという。デザインの切り札は、普遍の形状“ディッシュ”だ!

source : ワーク 06-6746-2859 / 048-688-7555 / 052-777-4512
<https://www.work-wheels.co.jp>
 spt.thnx : アイズ 0467-39-5503 <https://www.isshin-japan.com>
 フレーバー 048-783-4411 <https://www.flavor-cars.com>
 photo : Shogo Homma
 text : Akio Sato (rsf)

Seeker DT

SIZE : 16 × 6.0J+42 ~ 9.0J ± 0, 17 × 6.0J+42 ~ 10.5J ~ 34, 18 × 7.5J ± 50 ~ 11.5J ~ 49
H-P.C.D. : 4H-98 ~ 114.3 / 5H-98 ~ 120.65
COLOR : CUT CLEAR, MATTE BLACK (CUSTOM ORDER AVAILABLE)
PRICE : ¥57,200 ~ ¥82,500





憧れのテスタにフィン&ディッシュ

センターのディッシュパートと外周のフィンパートの比率をディッシュ多めに設定することで、重厚感あるフォルムを勝ち得たシーカーFD。ディッシュ自体は平坦な造形を嫌い、ボルトホールからフィンにたどり着くまでの間に何度も角度を変えながら、アウターリムのほうへと進行していく。そして、ピークに達したところでフィンへとバントッヂ。こちらは逆にアウターリムから遠ざかっていくことで、全体としてメリハリ強めな作品となっている。



ディッシュパートのアップを見よ。ボルトホール周辺の落とし込みの見事さ。そこから緩やかなカーブを描きつつ外側へ、外側へと広がっていく細心の曲面は、ユークリッド幾何のセオリーを超越した世界観を演出。

2ピースのディスクはリムから距離と深さをとる、いわゆる厚切りの形状を採用。これにて深リムマニアたちのハートをむんずと捉えて離さない。ディスクのカットクリアとリムのバファルマイドが魅せる対比の妙も、いとエロシ。

ワンオフマフラーもブラックアウトして、ブラックコーディネートを鉄壁のものに。なお、このテスタは、“クラシケ”という最良状態にあるフェラーリにのみ与えられるお墨付きをもらった、貴重な個体であることを追記しておく。

WORK

Seeker FD

× FERRARI TESTAROSSA

オーナーの小野寺サンは、重度の高級車中毒だ。最近乗ったものだけでもガヤルド、アヴェンタ、Sマイバッハと、4ケタ万円級のハイエンドがズラリ。そして、「昔から憧れていたテスタの黒が見つかったので、買ってみました♪」と、ついに往年の超絶スーパーカーのステアリングを握ることに！履かせたFDは、左右色違いを選択。「黒が似合うかなと思ったけど、意外とカットクリアもいいよね♪」と、FDとのマッチングのよさに満足だ。

OWNER : NOZOMI ONODERA

BASE CAR : 1991 FERRARI TESTAROSSA

WHEELS : WORK Seeker FD (F=18 × 8.5J+25, R=18 × 11J+48)

TIRES : NITTO NT555 G2 (F = 215/35-18, R=255/35-18)

SUSPENSIONS : I'S ONE-OFF ADJUSTABLE COIL OVER

TUNING : I'S ONE-OFF EXHAUST SYSTEM

WORK

Seeker DT

× BMW M3

市川サンのE46/M3は、ただのM3じゃない。ラグナセカブルーのボディに同色のレザーアンティアという、かなりレアなラグナセカまみれの一一台なのだ。この配色と当時の雰囲気を最高に引き出すために選ばれたのが、シーカーDT。「てっちゃんホイールもありそうなシンプルなデザインはE46にピッタリで、カットクリアの質感がラグナセカブルーとちょうどいい対比を魅せる」と、こちらも満点一発合格のようだ。

BASE CAR : 2001 BMW M3

WHEELS : WORK Seeker DT (F=18 × 9.5J+22, R=18 × 10J ± 0), THUNDER BOLT CLUB SPORT STUD CONVERSION

TIRES : NITTO NT555 G2 (F = 225/40-18, R=255/35-18)

SUSPENSIONS : ST ADJUSTABLE COIL OVER

TUNING : SACLAM SILENCER KIT SPEC.2

EXTERIOR : NEXT INNOVATION FRONT LIP SPOILER

ラグナセカまみれのE46に王道ディッシュ



シーカーDTの第一印象に、かなりの物足りなさを覚える方がいらっしゃるかもしれない。確かに大柄なディスクと8スロットのコンビネーションは、あまりにも既存のてっちゃんホイールに寄っているからだ。だが、天下のワークがそんな平凡な作品を世に問うわけがない。中心部の面構成、外周との切り替え部、8スロットの外周と、ディテールはとことんまでブラッシュアップされ、ネオディッシュと呼ぶにふさわしい格を備えるのだ。

オーナーはラグナセカの魅力に取りつかれ、ボディカラーとインテリアカラーがそろった車体を何年にも渡って探してきたのだと。ついに見つけた一台は、今後エンジンOHなどのレストアを軸に磨き上げていくとい。



ディッシュのディスクは、無地のキャンバスとも言える。スポーティやメッシュといった意匠に犯されることなく、シンプルにアルミ素材とワークの鋳造技術の確かさだけを表現してくれるのだ。現車はチタンのスタッドボルトで青を差す。

8スロットの間には十分すぎる厚みがあり、剛性感と耐久性になんら問題はナシ。そして、バファルマイドに映り込むスロットの美しき表情にも、もっと目を奪われるべきだ。ワーク伝統のカラリズムなどのオーダーにも対応可。

